

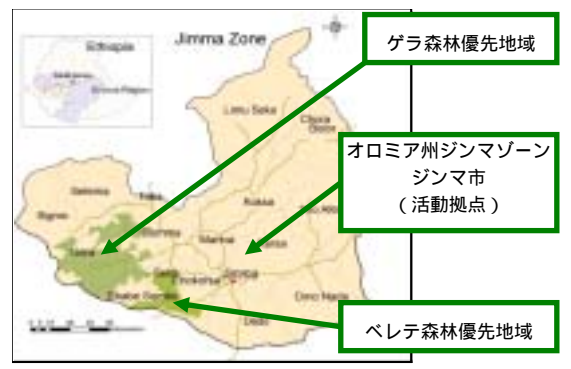
WaBuB PFM News

~ Respect Local People's Knowledge for Sustainable Forest Management ~

JICA 技術協力プロジェクト

エチオピア ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画フェーズ2

2007年4月15日発行 (第5号)



WaBuB 普及活動の本格化へ2

WaBuB PFM News 第4号では、ベレテ・ゲラの森に住む人々の生活について、特に生計活動、収入という視点からご紹介しました。第5号では、それぞれの集落内で機能している、「住民組織、コミュニティー活動」に焦点をあてて、ご紹介していきたいと思えます。また、WaBuB 組織化に適した集落の単位についても考えてみたいと思います。

ベレテ・ゲラ NOW ~ 住民組織について ~

チャフェ集落を含むベレテ森林内の村々では、「シャネ」と呼ばれる30~40世帯で構成される小集落が、生活上の基本的な社会単位として機能しています。シャネには、コミュニティー内で決められた、さまざまな社会的なルールがあり(農業や放牧に関するルール、水源(湧水)の管理、敷地境界に関する調停等)、シャネ内でおこるもめごとは、住民から選ばれる、「アバ・シャネ」と呼ばれるシャネのリーダーが調停を行い、時にはルール違反をした住民に対して、罰則を科することもあります。

また、それぞれのシャネは、「ジガ」と呼ばれる組織(大集落)に属しています。ジガは、隣接する4~5個のシャネから構成されており、世帯数としては150世帯前後が一般的です。ジガには、議長の「アバ・ジガ」、3人の長老からなる「アバ・ジャルサ」、そして、ジガに所属するそれぞれのシャネから選ばれた委員によって構成された、住民会議が組織されています。ここでは、所属するシャネ間の問題解決やもめごとを調停したり、資源利用についてのルールを決めたりします。また、ジガには、「イディル」と呼ばれる相互扶助活動を行なう組織があります。ここでは、主に葬儀の手配、手伝いをしたり、病人や手助けを必要としている家庭への支援を調整したりします。

チャフェ集落が位置するサバカ・ダビエ村は、5つのジガと、各ジガに所属する計15個のシャネから構成されています。重要な決定事項や政府からの通達等は、村長→アバ・ジガ(ジガのリーダー)→アバ・シャネ(シャネのリーダー)というルートで、それぞれの家庭に伝わっていきます。

WaBuB チャフェは、「チャフェ・シャネ」をベースに組織化されている森林管理組合です。会員は(54世帯)、チャフェの住民(46世帯)に加え、チャフェ・シャネが利用・管理している森林内に利用権を持っている人(主に近隣シャネの住民)も加わっています。

「シャネ」と「ジガ」…さて、WaBuB の組織化には、どちらが適しているのでしょうか。チャフェでは、「シャネ」をベースに WaBuB が設立されました。これは、シャネがコミュニティーの最小単位として、世帯ごとのつながりも深く、上述のように、集落内のもめごとの調停機能もそなえているからです。一方、「森を管理する」という目的を考えた時、近隣集落も利用している森を含めた「森林」としてのまとまりを見すえて、その「森林」を管理していくために、最も適した住民組織単位を考えていく必要があります。ベレテ森林では、「ジガ」が隣接するシャネ間でおこる問題(森林境界や森の利用に関する問題を含め)の調停機能を持っていることなどを考えると、自然資源を管理していくための組織としてはより適当であると考えられます。プロジェクトでは、チャフェ・シャネに加え、隣接する他の3つのシャネを加えた、メティ・ジガという大集落単位で WaBuB を組織化するサポートを続けています。

ゲラ森林の場合も、「シャネ」、「ジガ」の呼び名こそ違うものの、村内には同じような住民組織が存在します。ゲラの場合は、コミュニティーの最小単位が「ガレ」、そしてガレが集まった集落としてのまとまり(大集落)を「ゴティ」と呼んでいます。これは、政府が定めた村の統治単位の呼び名ですが、集落の機能としては、ベレテ森林の「シャネ」、「ジガ」と差異はありません。アフアロ集落は、ゲラ・アフアロ村にある3つの「ゴティ」の1つです。しかし、町から離れた森の中に位置する集落ということで世帯数も少なく(44世帯)、アフアロには「ガレ」が存在しません。これは、ゲラ郡の村々の中でも珍しく、3~5つの「ガレ」が集まって「ゴティ」を形成するのがゲラ森林エリアでも一般的です。

フェーズ2では、ベレテ・ゲラ優先地域に位置する村々の中で、WaBuB を広く組織化していきますが、このような村内の住民組織単位の特徴、集落間の森の利用・管理形態等に十分配慮して、WaBuB を組織する集落単位を決めていく必要があります。

WaBuB は、現地オロモ語で(地域住民により組織される)森林管理組合の略称、PFM(Participatory Forest Management)は参加型森林管理の略称です。よって、WaBuB PFM は、本プロジェクトが確立・普及を目指す WaBuB による参加型森林管理方法を意味します。

ベレテ・ゲラでの新人研修を終えて

ベレテ・ゲラでの1ヶ月間、私はベレテ森林優先地域においてローカル NGO が実施した調査への参加と WaBuB PFM 普及用漫画冊子作成の2点に主に携わることができました。漫画冊子については前号の『ジンマの絵描き・エリアスとの日々』で紹介されたように、現在もお作業は続いており完成までもう一息というところです。そこで今回はローカル NGO が実施した調査についてご報告したいと思います。

本調査はローカル NGO の FCE (Facilitators for Change Ethiopia) により、今年度からベレテ・ゲラ参加型森林管理プロジェクトと連携事業を実施するための準備として行われました。前号の『ベレテ・ゲラ NOW』において住民生活の現状として紹介されたとおり、農地拡大抑制を見据えた既存農地の活用促進、および生計向上支援をプロジェクト活動の一環として検討しており、そのための事前調査が行われました。

調査では参加型農村調査法 (PRA: Participatory Rural Appraisal) と呼ばれる住民の主体性に基づいた考え方やプロセス、現状を明らかにする社会調査法が用いられました。これは単に対象地域住民をインタビューするのみならず、地図や関係図表などを住民が共同で作ることを通じ、情報を視覚化・統合化することを意図したものです。調査対象地のメティ・ジガ集落を二つに分け、さらにそこから世帯主グループ、青少年グループ、女性グループにグループ分けして FCE 職員と郡職員がファシリテーターとなり実施されました。



石や木を使って地面に地図を作成する参加者

使用言語が現地語のオロミア語だったため私の理解は一部でしかありませんが、グループごとに地域住民が議論をし、集落の地図や世帯当たりの土地利用状況図、世帯別収支バランスなどを作成していく過程・結果は大変興味深いものでした。

私は参加できませんでしたが、その後も第2回現地調査やアファロ周辺での調査が実施され、いよいよ5月から連携事業がスタートする運びとなっています。NGO と郡事務所、そしてベレテ・ゲラプロジェクトがどのように連携し、地域住民そして残された森林のために事業を実施していくか、今後の展開を読者の皆さんと共に私も楽しみにしたいと思います。(JICA エチオピア事務所 山本剛)



休憩時間にコーヒーを準備する女性

ベレテ・ゲラの有用樹種

Cardamom



森の中に自生するカルダモン
根元に赤い果実をつけます

前号の『ベレテ・ゲラ NOW - 住民の生活の現状』で、主な現金収入源としてコーヒーと蜂蜜をご紹介しましたが、これらに較べると収入としては少ないものの、カルダモンの木も住民に利用されています。

カルダモンはショウガ科の植物

で、コーヒーと同様に森の中に自生する低木です。アファロ集落の場合、1世帯でおよそ30~50kg 程度を毎年収穫し、約150~400ブル(日本円で約2~6千円)の収入になります。収穫作業は主に女性によって行われ、収穫した実をそのまま天日干して乾燥させた後、市場まで運んで売却し、女性達が自由に使える重要な現金収入源となっています。

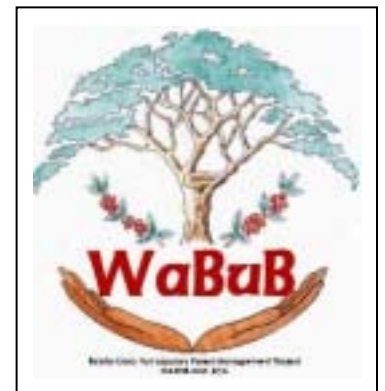
日本でもスパイスやお茶としてよく知られていますが、エチオピアでは主食インジェラのおかずのワット(豆や肉を煮込んだもの)にスパイスとして使われることが多いようです。



収穫したカルダモンを天日干して乾燥

プロジェクト・ロゴを作りました

プロジェクトでは、「森と人の共生」をイメージした、プロジェクト・ロゴを公募しました。多数の応募の中から、以下のロゴを採用し、今後、WaBuB 普及活動の中で利用していく予定です。中心にある木は、オロミア語で「アンバベッサ (*Albizia Gummifera*)」という名前の木で、森林コーヒーのシェード・ツリー(被陰樹)として、住民から大切にされています。そして、森の恵みの象徴としての伝統的養蜂箱と赤いコーヒーの実、WaBuB という住民組織が森を支え、森が豊かな恵みを人々へ与える... そんな共生のイメージが表現されています。



5月中旬までの主な活動予定:

5月初旬: 新規 WaBuB 組織化に向けた調整会議(対象集落の選定等)
5月中旬: 短期専門家(2名)赴任(WaBuB 普及戦略の策定、農業・アグロフォレストリー技術普及)

発行元: ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画フェーズ2 ニュースレターやプロジェクトへのご意見・ご感想もお待ちいたしております。

E-mail: belele-gera@ethionet.et (担当: 西村、吉倉)

URL: <http://project.jica.go.jp/ethiopia/0604584/>